



2012年12月25日

スバル全モデルが米国 IIHS の 2013 年安全評価で 最高評価である「トップセイフティピック」を獲得

～ レガシィ、アウトバックが 2013 年基準に新規追加された「トップセイフティピック+」を受賞 ～
～ 4 年連続で全モデルが「トップセイフティピック」を受賞した唯一のメーカーに ～

富士重工業の米国販売会社スバル オブ アメリカ インク*1は、北米地区で現在販売しているスバルの 2013 年型全モデルが、IIHS*2(ハイウェイ安全保険協会)が行う最新の 2013 年の安全性評価において、最高評価の「トップセイフティピック」を獲得したと発表しました。また、スバルは、4 年連続で、モデルラインナップ全車(レガシィ、アウトバック、フォレスター、トライベッカ、インプレッサ、スバル XV、スバル BRZ)が「トップセイフティピック」を獲得した唯一のメーカーと評価されました。

さらに、2013 年型*3のレガシィとアウトバックが、スバル車として初めて、IIHS が実施する 2013 年「トップセイフティピック+」を受賞しました。「トップセイフティピック+」は、IIHS が実施する乗員保護に関する 5 つの安全性評価項目のうち、4 つ以上の項目において「good」を獲得し、かつどの項目においても「acceptable」以上の評価を獲得することが受賞の条件となっています。

本発表を受け、スバル オブ アメリカのトーマス ドール上級副社長兼 COO は「IIHS によるスバルへの高い評価は、安全に対するスバルの高い信頼性を支持するものです。全モデルが IIHS トップセイフティピックを獲得し、さらに、レガシィとアウトバックの 2013 年型についてはトップセイフティピック+を獲得したことがその証明です。」とコメントしました。

IIHS は自動車の安全情報を「Good」「Acceptable」「Marginal」「Poor」の 4 段階評価で消費者へ提供しており、「Good」は協会基準の最高評価となります。「トップセイフティピック」を受賞するにはフロント、サイド、リヤ、そしてロールオーバー(車両転覆)時の安全評価すべてにおいて最良の乗客保護性能を持ち合わせたクルマとして、最高の「Good」を獲得することが条件となっています。

これに加え、IIHS は前面衝突時における乗員保護性能をさらに改善するため、2012 年にスモールオーバーラップ試験を導入しました。スモールオーバーラップ試験は、車両の前面コーナー同士との衝突や、車両の前面コーナーと電柱等、前方にある物体との衝突を想定した非常に厳しい衝突試験です。この試験では、車両前面の運転席側 25%に渡る範囲を高さ 5 フィート(約 1.5 メートル)の衝突試験用バリヤに時速 40 マイル(約 64 キロメートル)で衝突させます。

富士重工業は、ブランドステートメントである“Confidence in Motion”を通じて、スバルならではの「安心と愉しさ」の提案を掲げています。この「安心と愉しさ」を支える重要な要素である「安全」を、ALL-AROUND SAFETY の考え方の基に、アクティブセイフティ、パッシブセイフティ、プリクラッシュセイフティの各技術進化により実現していきます。

*1 Subaru of America, Inc.:ニュージャージー州チェリーヒル、会長兼社長 日月文志

*2 Insurance Institute for Highway Safety: 米国保険業界の非営利団体

*3 2012 年 8 月以降生産モデル